



復刊第84号
題字吉岡弥生

国際女医学会第十七回国際会議特集

バーミンガム会議の報告

副会長 山崎 倫子



レセプション会場にて

八月十七日から二十三日まで、発展途上国及び先進国における医療の優先」というテーマで、第十七回国際女医学会が開催された。参加者約六百名、同伴者を含めて六百数十名、

八月十七日から二十三日まで、発展途上国及び先進国における医療の優先」というテーマで、第十七回国際女医学会が開催された。参加者約六百名、同伴者を含めて六百数十名、

医の倫理(先進国)、(内麻薬、アルコール、薬品常用等)、(七)栄養、虐待、老人医療等その他に分けることができる。途上国では新生児及び乳幼児死亡を最大の問題として取り上げている。英国及びオーストラリアからは母親の糖尿病と新生児死亡の関連が報告された。いうまでもなく、新生児死亡の主な原因は、未熟によるものが最も多く、先天性奇形、出産時死亡が続くが、妊娠中の母親教育と母性保護が重要であること、また人口学的にも家族計画の面でも、両親が子供を持つ態度と心がまえが重要であることが強調された。

オランダは一九七〇年から妊娠中絶の社会的適応を認めているが、中絶率は世界で最も低いとのこと。『最も安全で簡単な中絶』と題するフィルムが上映されたがこれは局麻で行い吸引する方法であった。手術後三十分の休憩で帰宅を許し、希望者にはIUDを挿入する。ドイツでも妊娠中絶には医師も一般も寛容で、一九七六年以来認められている。オランダ、ドイツ共に中絶は保険の適応になっている。希望しない妊娠を予防するための性教育が必要であるが、と同時に子供を持つことが家族の幸福であり、楽しいものであることを知らせることも重要であると強調した。

インドのある農村地区で一九七五年から七九年までに四五〇〇例の開腹による不妊手術が行われたが、この事業は行政側からも母親側からも非常に喜ばれているとの報告があったが、なぜ、より簡単な男性の不妊手術が行われないのか奇異な感じを受けた。またナイジェリアでは、医学的適応による中絶しか認められず、闇の中絶が多いとの報告があり、これもまた何となく意外であった。

目次

国際女医学会第十七回国際会議特集	
バーミンガム会議の報告	山崎 倫子 1
国際女医学会決議	山崎 倫子 2
国際女医学会副会長に選ばれて	佐野アヤ子 3
国際女医学会とスコットランドの旅	井上 柳子 4
国際女医学会五十年会員表彰者	柳瀬 路子 5
「日本女医の実態調査」を終わって	柳瀬 路子 5
昭和五十五年度定時総会について(予告)	5
支部展望 東海地方	5
愛知支部だより	森川みどり 6
静岡支部だより	山内 千枝 6
Circular Letter No.61	山崎 倫子 7
社団法人鶴風会結成二十周年記念祝賀会に出席して	野沢 良美 8
学術研究助成の案内	8
寄贈図書及びパンフレット案内	8
忙中閑	8
忙中亦楽忙(我愛北京天安门)	小出つる子 9
理事会議事録(六月・七月)	9
会員動静	10
編集後記	10

養失調、寄生虫、住血吸虫、マラリア、鉤虫等も大きな問題となっている。韓国は、小児期伝染病の変遷、近年のポリオ、流行性耳下腺炎、食中毒、ウイルス性疾患の増加傾向を報告した。桑江氏、佐野氏の「日本における結核死亡の傾向と結核対策について」を佐野アヤ子氏が発表、小林梅子氏も「日本における急性伝染病について、三十年間における発生の変遷と現状についての問題点と対策について」発表された。工業国においては職業病の防止、

安全かつ健康的な職場環境の必要性和適切な法的措置の確立(カナダ)、官公立学校教職員にみられる、頭痛、胃潰瘍、腸炎、皮膚炎、高血圧等のストレス病について(アメリカ)、子宮頸部癌の早期発見をめざし、三十五歳から五十五歳を対象としたマススクリーニングは、今日フィンランドの最も重要な国家的保健事業のひとつとなつてゐる。南亜からは癌術後者に対する長期に亘る追跡調査の重要性等が発表された。

英国ではプライマリ、ケアの考えから疾病予防、健康児検診等が導入され、研修会や卒後教育が盛んになつた。パラメディカル特に地域保健婦と共に行政面にたづさわられるようになった。またスエーデンでは多くの医師が、パートタイム診療、パートタイム保健官として地域の健康管理をするようになった。

医学教育は大学、職場を通して一貫継続されるような総合計画が必要である。医師の生涯学習はフレキシブルであることが必要で、妊娠、育児、疾病、事故、リハビリ等により中断された場合でも、容易に学習に復帰参加できるよう計画されるべきである(オーストラリア)

薬物常用に関連して、向神経薬の服用及び常用による諸々の影響について(英国)、若者間の薬物常用、その予防とリハビリ(西ドイツ)、アルコール、マリファナ、アンフェタミン、麻薬等常用者の増加、その危険と弊害(アメリカ)等の発表あり。

今後の医療に關してもたくさん報告があつたが、特記したいことは、医師の地理的分布の不均衡、都市、農村または遠隔地の医師の孤立。専門化のさらに細分化傾向、患者の医療における他の保健専門家関与の増加、家庭医軽視の傾向、家庭医は人の一生一生から死に至るまで扱うのに対して、もの知りになつた一般大衆は不可能に近い要求を数々求める、昔から培われてきた医師と患者の間関係の悪化、倫理感の低下、左傾政策による自由診療に対する管理統制の強化(アメリカ)等真剣に考えるべきものが多い。保健医療制度が変化し複雑化するにつれ保健経費の増大は世界中に拡がっている。医学の進歩によることはもとよりであるが、人々の健康への関心が従来の病氣指

向から健康指向になつてきている。人々の健康権と各種医療制度のもたらす諸問題について、出来高払いより各人がその都度窓口で立替払いする方法が好ましいのではないか(西ドイツ)、過去十八カ月も整形外科の専門治療を受けられずに苦しんでいる腰痛症の老人の例をあげて、自費を払えばすぐ治療を受けられるのにと、英国女医学会員から、社会医療制度と官僚政策に対するきびしい批判と不満の声が会場にひびきわたるといふハブニングもあつた。その他として藤田親代氏の「喘息学童の医療を優先させた長期入院療法の成果について」の発表があつた。

以上、簡単に述べたが、総括すると、

(一)まだ貧困、無智、文盲、非衛生に苦しむ人口が多い国々では、伝染病予防、母子衛生、家族計画等を医療の第一優先としてゐる。したがつて忍耐強い継続的な衛生教育が最も重要である。

(二)先進国では、アルコール、麻薬、向精神薬を始めさまざまな薬品常用が多くの問題を惹起している。健康な家庭、健康な子孫を作るためにもその予防、治療、リハビリに關心を持つべきである。

(三)医師と患者の人間関係の強い医療から、医学の進歩にともない、コンピュータ診断、ロボット治療にかわりつつある。また人間の生命の質よりも命をただ引延ばす傾向にあることに対する批判と反省が求められるべきである。

(四)保健医療制度の変革及び複雑化にともなう保健医療費の増大、医療制度そのものが伝統的病氣指向から、前向き医療、健康維持、増進、その他予防医学に対する幅広い意味をもつ健康指向へ切替えられ、世界中に拡がつてきていることを認識すべきである。

(五)第三世界の新興国では国をあげてプライマリ、ケアに、医療要員の養成に、伝染病予防に、母子衛生に、力強い努力をしている様子が、それぞれの報告の中にもうかがわれ、アフリカからの参加者三十七人の若さの中に燃えるエネルギーがひしひしと感じられた。



ロンドンの近衛兵交替儀式

国際女医学会議決議

地域副会長に佐野アヤ子氏が出された。小野春生氏も名誉会員に推薦され、日本女医学会にとっては嬉しいことが重なつた訳である。お二人の今後の健闘を切望したい。
なお七十六人の先輩が五十年会員として表彰されたことも加え報告を終りとする。

決議一

(一) 一般に使用される住居用品で、子供に危険があるものについては、その旨の注意及びその正しい安全な使用方法が表示されなければならぬ。また製品の安全基準が制定されなければならぬ。
(二) 医薬品容器は子供に安全なものでなければならぬ。
(三) 気軽に意見を聞くことのできる毒物情報センターの設置が必要である。

決議二

(四) 子供の安全強化のための広報手段にメディアの関与が必要である。
身体についての知識、疾病に関する情報、治療法決定について責任を分担すること等が自分自身の健康状態を増進するものであることを医学教育の中で強調されなければならない。

各国会員の持ちよつた品物は数多く、二日目に設営された土産物店ではとぶような売ゆき、日本からは約一〇〇点持参した。売上総額は二千ポンド(百万円強)をこえたとの報告があつた。また日本からの素晴らしい市松人形と佐野先生持参のきめ込人形は最後のバンケットの席上オークションされ、貴重なファンドの財源となつた。
さて次期国際会議は一九八二年十一月二十一日から二十六日まで、フィリピンのマニラで開催される。なお一九八四年はカナダ。テーマは「男と女」に決定した。
フィリピンでの会長は、Dr. レッドシヨウであるが、次期会長候補にはフィリピンのDr. ゴメスが選出された。また副会長の一人、西太平洋

決議三

MWIAは、次のことについて積極的な行動をとることを決議する。
(一) 世界中の女性に健康教育を行うこと。
(二) 不当な積極的医療や外科的手段から女性を守ること。
(三) 健康問題に関して女性の権利を守ること。

(四) 女性の健康管理に関する事項の決定については女性参加を増やすこと。
患者の健康状態は、彼等の社会的、文化的役割との関連において考慮すること。
独裁的な、あるいは単なる技術的アプローチは避けなければならない。このことは医学教育の中で強調されるべきである。

すべての国のすべての女性は、妊娠を希望しない場合、妊娠しないことを自分で決定する権利を持つべきである。正しい安全な避妊方法についての情報が用意されなければならない。

診断や治療の怠慢による死亡や手遅れのために要する費用に比べ、治療効果もすぐれ、また特に発見率も高く、治療も比較的容易である前癌状態の発見を目的とした事業の費用便益について、政府の注意を引出すことが必要である。この決議は特に乳癌、子宮頸部癌及び前癌状態を対象に進めるべきである。

決議七

高齢者の大切なことは誰もが考えていることである。高齢者は住み慣れた環境の中で扶養されなければならない。ホームヘルプやその他の援助が得られるセンターが必要である。老人を専門病院に隔離することは避けなければならない。いかに快適であつても、隔離は老人問題の解決にはならない。老齢期とは、成長期、成熟期を通りこした権利を持つ人生のひとつときなのである。

国際女医学会副会長に選ばれて

大田支部 佐野アヤ子

第十七回国際女医学会がバーミンガムにおいて開催され、出席会員六四六名の中、日本女医学会員は七十五名で、たくさん成果をあげられ、無事帰国されました。



国際女医学会メンバーと

麻薬や薬物常用者に対して十分な援助ができるよう、対象をしばった専門の治療センターの開発と規定をつくるのが緊急優先されるべきである。(国際連絡書記)

今回の総会における選挙で、私が国際女医学会、西太平洋地域の副会長に当選しました。この地域は、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、コレア、タイワン、ホンコン及び日本の七カ国よりなり、国際女医学会総数一万二千名の中、会員数約三千六百名位の大きな地域であります。この重任に答えるためになお一層努力して参りたいと思います。何とぞご支援、ご協力の程心からお願い申し上げます。

その後、一九七二年、パリで第三回国際女医学会が開催された際、日本女医学会より九十九人参加したため、国際女医学会は多数の出席に対し目を見張り、その時から日本は後進国でなく先進国として認められるようになりました。そして、九十九人もの出席者があるにもかかわらず、日本は未だ一度も国際女医学会に寄付した事がなかったといわれ、寄付を要望されました。アメリカ、イギリス、オーストラリア、フィリピン等は数千ドルも寄付しているという事でありました。それから日本女医学会の許しを得て、連絡書記在任中、国際女医学会に対し毎年、寄付金として五〇〇ドル送金する事を約束しました。このパリ会議において、日本は国際の信頼を得て、第十五回国際女医学会の開催地として選ばれました。さらに小野先生も次期会長として選ばれました。

パリ会議後、モラーニ募金委員長の要望により、参加者の残金、利子、旅行者の寄付等、あわせて一五〇万円を基金にして国際ファンドが設立されました。その使用目的は、一、国際女医学会総会開催前に地域的に分科会を行う、主に学術プログラム及び研究会を行う
二、医学雑誌や国際女医学会宣伝パンフレットを配布す
三、発展途上国における女医への援助をする
四、留学生や研究生交換が出来るよ

うにする
以上のことに対して今後、国際交流基金が有意義に使用されることを熱望します。
東京会議は大成功に終り、外国の出席者の評判も大変よく、今までの会議中で日本が一番よかったといまだにいわれております。
国際会議終了後、収支決算の残金は各国の例にない基金を設けることになっております。例えば前ロンドン会議の残金は「Travel Fund」(国際本部の旅行資金)、オーストラリアは「Julilee Fund」(フィリピンは「Love Joy Fund」、ブラジルは「Follow ship Fund」等である。アメリカ、ウィーン及びパリ会議は損金でしたのであります。日本は国際女医学会事業の女医の先駆者の本を発行するために一万ドル寄付するよういわれましたので、東京会議の残金ではなく、国際ファンドより一万ドル送金しました。同時国際女医学会基金活動のため友人の賛同を得て、真珠パーティーを開催し、その利益より五千ドルも寄付しました。

この度、募金委員長の再任を要望され、固くことわったのですが、国際女医学会幹部の推せんにより止むなく募金委員長になり、日本女医学会に推せんされ、国際女医学会で投票の結果国際女医学会副会長の兼任を負



エジンバラ城の正門 衛兵の前にて

北欧の旅を終え、ロンドンから、バスで、パーミンガムへ向う途中で、エイボン川に沿った静かな、ストラ

国際女医学会議とスコットランドの旅

千代田支部

井上 柳子

トフォードの町に寄り、シェイクスピア夫人の生家を訪れた。日本の田舎を偲ばせる、茅葺の屋根のある建物で、色とりどりの花に囲まれ、ロマンチックで、往時、シェイクスピアが、夫人と、この通りを散歩したのだと思うと、大地を踏みしめる幸せを感じた。メトロポールホテルでの、レセプションは、各国の華やかに盛装した先生方が、再会を喜びあい、カクテルを片手の握手で、和やかなムードで、コーラスや、ファッションショーは、さすが本場の美しいモデルの動きと音楽との調和はす

うことになりました。初めての参加当時は理解されなかった日本が、国際女医学会参加も増加し、日本女医学会からの加入会員数も多くなりました。私は十一年間、国際連絡書記としての任務を誠意をもってまいりました。そして各国の女医さん達の信頼と理解を深め、この重大なるポストに就任することになったと考えられます。

これは西太平洋副会長としてオーストラリア、フィリピン、ニュージーランド、コレア、ホンコンとタイワン等の西太平洋地域の連絡書記ました。これは会長と密に連絡を取り、これらの国々を訪問し、おたがいの親密度を高め、情報を交換し、出来れば學術プログラムを含む分科会を開催するよう努力したいと思えます。なお、女医学会を持たない国々に対して女医学会を設立し、加盟することを奨励し、同時に会員の増加、国際女医学会の宣伝、募金に努力するようしなければなりません。この重任を果し、日本女医学会の實力を示すためにも会員の皆様のご協力、ご指導の程、よろしくお願い致します。(日本女医学会 理事)

ばらしかった。開会式、論文発表、第一回、第二回の総会の間に、私は社交行事に参加した。ワーウィック城の苔むした石の城壁、地下牢の、うす暗い小さな窓と壁の瓜跡、石段の凹みが、歴史の血なまぐささを感じ、身ぶるいをしたのは、私だけではなさそう。夜はエイボン川の岸に建つ、シェイクスピア記念劇場で、「ハムレット」を観劇した。心地良いセリフのテンポや、リズムの流れに、身をひたして、舞台を眺めていると、自分も、あわれな、オフィリヤになった心地で、くいている様に劇の中にひきこまれ、アンコールの拍手に、フト、我にかえり、おしめない拍手を送った。また、民謡の国、スコットランドのエジンバラを訪ねた。海拔一四五mの岩山の上に、岩としての、エジンバラ城があり、キルト姿の、スコットランド兵が、人形のようになら立っている。石畳の坂道をのぼって行くと、大砲が眼下に広がる街に向っておいてある。プリンセス、ストリートのおの街の眺めは、すばらしく、イブシ銀の彫刻をみるようで、古典的な、たたままいである。グラスゴーまでのバスの旅は、車窓に展開する緑の森林と丘、美しい湖、小川の流れ、羊や牛馬が、悠々と草をはむ牧歌的な風景は、あきない。薄紫色の小さなヒースの花咲く原野や岩山が延々と続き、「嵐が丘」の作者エミリオ、このヒースの花の丘に魅せられて歩いたであろう。バスをとめて、ヒースの花を、つんでいる先

生方の姿は、まるで少女のように、心はずませていた。スコットランドの美しい風景が、あの有名な、故郷の空、「螢の光」の曲をつくらせたのだと泌々思った。閉会式には、日本から持って来た、丹誠こめてつくられた、男の子と女の子のお人形と酔な古典的な人形が花をそえ、大役を果してくれた。日本女医学会員が心を一つにして、国際会議に、佐野先生、山崎先生、小野先生を中心に、大きな輪をつくり、まわりながら、お互いに心のふれあいを感じあう時の暖さは、出席した者でなくては、味わうことができないと思えました。

55・10・8

国際女医学会会員継続五十年会員表彰者

(敬称略)

- 岩手支部 樋口ミツ
- 宮城支部 白田政子 松山京子
- 群馬支部 栃木雪子
- 埼玉支部 飯村 春
- 栃木支部 多島智恵 星 光子
- 茨城支部 小泉 和
- 千葉支部 犬飼美代 海村芳枝
- 足立支部 寺島良子 花岡常子
- 江戸川支部 松岡初年
- 大田支部 吉岡フキ
- 江東支部 小野寺多美子
- 新宿支部 西尾範子
- 加藤澄子 福岡玲伊

- 墨田支部 松村鉄子
- 世田谷支部 平山浪江
- 子 岡本さかき 宮崎明
- 台東支部 佐藤はつ
- 千代田支部 龍 知恵子
- 豊島支部 中村菊枝
- 中野支部 大村ひさゑ
- 港支部 落合はな グライル昌子
- 目黒支部 井街静代 藤原 正
- 都下支部 中嶋ふさ 中西清子
- 森田富美子 馬淵かのと
- 神奈川支部 足立智恵子 池田珠
- 松井 露 村田マサエ
- 静岡支部 川野辺静 林富美子
- 愛知支部 板倉玉子 井上ふみ
- 亀井千代 水谷サク 村松忠子
- 矢崎光子 山崎峰子 渡辺文子
- 長野支部 星野礼子 吉田登喜
- 新潟支部 登戸美代治 永野きん
- 本多貞子
- 福井支部 明石寿美子
- 奈良支部 南 春枝
- 京都支部 山田富子
- 兵庫支部 植村鈴子 曾爾てる子
- 大西寿子 田辺静子 並木英子
- 岡山支部 今井 甲 土井雅子
- 名和千嘉
- 広島支部 山根喜久子
- 鳥取支部 中山 斐
- 山口支部 青柳雪子 最所福子
- 香川支部 蓮井敏子 依光 富
- 徳島支部 幸田とみ
- 福岡支部 池田照世 大沢フミエ
- 熊本支部 岡留フミ 越山昌子
- 大分支部 山田都美子

「日本女医の実態調査」を終って

世田谷支部 柳瀬 路子

第二報発刊の報告にも書きましたが、国際婦人年への協力事業として発足した日本女医学会の本事業が、本年、すなわち国際婦人年の中間年として「女性の差別撤廃条約の批准」に向って全国の婦人団体が決起しているさ中に完了をみたことは、本事業に携った者として感慨なきを得ません。本事業はもちろん女医学会の調査委員の力のみで完成されたものではなく、会員諸姉の協力のみでもない。5千を超える全日本女医の熱心に寄せられたアンケートの集積によって出来上がったものでありまして、調査当時厚生省調査に登録されていた女医の数は一万二千余・日本女医会員は四千五百で調査に参加した女医員の率は三八%でありました。

五千余に達するアンケートを手にした時、私どもは女医の皆さんの真面目な協力振りに驚き、これは本当の統計になるという確信を得ました。調査が進むにつれ、他の職域の婦人の統計と比較しようと思つて様々文献を渉猟したのですが、いずれも政府の数字を引用して比率を出している様なものでこれといってまとまつた統計はありませんでした。本調査は数からいっても内容からいっても一九七五年に生き、日本の医療を男子と同じレベルで支えた我々女医の実態を如実に記録したのと言えましょう。

会長の書かれた様に公的生活・私的生活の両面から女医の実態を当時の社会情勢をも含めて確実に後世に残すことが出来た事を会員諸姉と共に誇らしく思います。理事会で「統計は新しくなくては意味がない」とお叱りをうけたこともありましたが、しかし私はある時期のある実態は歴史の一頁として後世の比較になる用に意味があると確信し、統計の仕事は地味ではあるが大切な仕事で、また誰でもどこでもやれるものではない。女医会だから日本だから出来た仕事であると思つていました。

出来上った報告書を全国の医科大学・著名図書館・各大学・婦人団体、各府県医師会へ贈呈して沢山の感謝状を頂戴したので、その二三をご紹介いたします。なお新入会には部数の許す限り贈呈しているが、なお会員諸姉が贈呈して然るべしと考えられるところがあればお申し出いただきとうございます。

(婦人科学者の会 会長 猿橋 勝子姉)

「日本女医の実態報告書」第二報をご恵送いただき有難うございました。大変立派なご報告で女医だけでなく専門職に働くすべての女性にとつて参考になります。大変なお骨折であつたと思ひます。有難うございました。

(長崎市立高等看護学院 山中恵子姉)

天候不順で九月に入つて少々暑くなりましたが、朝夕はさすがに秋の気配を感じております。「日本女医の実態調査報告書」をお送りいただきましてありがとうございます。興味深く拝見させていただきました。一見はなやかに見えるのですが、人知れずご苦労なさつていらっしゃるのを知り敬意を表するのみ——というのが実感です。ありがとうございます。今後ともますますご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

(八王子市 福本英子姉)

「日本女医の実態報告書」第二報をご恵送いただきありがとうございます。前回いただきましたものとあわせて拝見し、たいそう面白く、特に女医さんの生活時間や男女差別など興味深い結果と思つております。男女差別ということの中には客観的に状況としてある差別と、その人の生き方が引き寄せる差別と両方あることを語る数字、というように思われどもつとよく読んでみようと思つております。ほんとうにありがとうございます。

いました。

(東京都医師会二十年史編集長)

見学 友殿)

お骨折のお裾分けいただきまして身に余る光栄に在じます。今回は女医の先生方の人間性に迫るご調査で何か遠い存在に思われた先生方が急に身近に感じられる思いが致しました。医の原点であるヒューマニズムに関するお仕事の一端に深く敬服いたしました。

最後に本調査に要しました費用をご報告申し上げます。実態調査の終

昭和五十五年度定時総会について (予告)

日時……昭和五十六年五月三十日(土)、三十一日(日)
場所……愛知県名古屋市中区ナゴヤキャッスルホテル
総会・評議員会……五月三十一日(日) 本部運営
討論会……総会終了後

今回は例年総会において行われます学術講演に代えて皆様と一緒に討論の機会を持ちたいと企画いたしました。
テーマ『今後女医会は如何にあるべきか』
細目のテーマ、発言方法その他につきましては後日詳細をご案内申し上げます。

懇親会……討論会終了後、皆様のお帰りにご便利なよう終了時刻を考慮しております。

観 光……五月三十日(土) 午後

名古屋で総会が開かれるのでついでに行くことが出来る……という近距離でユニークなところを数コース予定しています。例えば、明治村、小原村(和紙工芸)、瀬戸(陶器)、有松(絞り)、徳川美術館等質素ながらも支部全員で心からご歓待申し上げたいと存じています。ぜひ々々多数のご参加をお待ち致しております。

愛知県支部長

森川みどり

了を申し上げ 皆々様のご協力を心から感謝申し上げます。

収入	昭和50年度	20万
	昭和51年度	70万
	昭和52年度	150万
	昭和53年度	125万
	昭和54年度	100万
	厚生省補助金	55万
合計		515万
支出	調査費 第一報	200万
	第二報	76万
	報告書印刷費 第一報	150万
	第二報	80万
合計		506万

右記のほか、英文本製作費80万と、発送料100万を要した。
(日本女医会 副会長)

支部展望

東海地方

愛知だより

愛知支部 森川みどり

愛知県支部の活動状況について

(一)愛知県支部の対社会的事業の重点は「婦人と子供の健康相談」です。この事業につき女医学会誌にもご紹介していただいたが、今年度総会において三神会長のご挨拶の中でもすぐれた支部活動として言及された。昭和四十年に発足したこの健康相談(無料)は当初毎週でしたが、現在月一回全科にわたり夫々担当医が交代で相談にあたっており、以来十五年余休むことなく今日にいたっている。来年度改築の県医師会館内に女医学会事務局はもちろん、この健康相談のためのスペースも予定されて



80歳以上の先輩3名を囲んで有志一同

いる。また当地新聞、テレビにも再三取上げられ、各方面から表彰も何回か受けた。年一回全相談者にアンケート調査を行い、多角的に資料を検討して今後の参考に致しており、今年五月には「主婦の健康状態」という新聞社の記事にせひこの統計から見た女医の意見をとの要請で、各科別統計からみた考察を提供し、大きく取り上げられて反響があった。以上十五年余にわたる経験から、このような健康相談は女医学会として非常に有意義な対社会活動であると考

える。(二)その他の事業として、学術講演会を年四回、一般講演を年一回(今迄の主な講師として、佐藤愛子氏、上坂冬子氏、藤原弘達氏等)開催し、学術講演会の際には社保研修会も併せて行い、また老人、心身障害児等の施設も見学している。(三)福祉部活動としては年一回のリクレーション(一泊旅行、昨年は箱根方面へ出掛け、福永副会長に大変お世話になった。)年一回新年宴会を催しその都度趣向を凝らして参加者一同大いに楽しんでおり、また一ヵ月以上病気休診された先生へのお見

舞も行っている。以上のほか県下の新卒の女医を招待して懇談会も行い、老人の日には会員で八十歳以上の方々をお祝い申し上げ、ご自宅へ訪問したり、該当の先生方を囲んでお話を伺いながら会食を持っている(写真)

(四)愛知県女医史編纂、目下県下在住の全女医にアンケート調査を行いその資料を整理中です。関連した企画として昨年から三回座談会を開き第一回はその人生を語る(明治、大正年間に卒業された先生方を囲んで)第二回目はその人生を語る昭和二十年卒の先生方)第三回目は海外診療の若き日を語る、この座談会は各回ともそれだけでも大変有意義であった。

(五)支部事業のみならず本部の事業にも率先協力いたし、国際女医学会東京会議の際はもちろん、万博診療奉仕にも多くの会員がいろいろな面で積極的に寄与した。これは支部の組織が充実確立しているためであり、また支部の各地域で独自にそれぞれ懇親、地域活動を行っていることも併せて起因していると考えられる。

(六)地域医師会、分科会では多数の会員が理事として活躍、基金、国保の審査員にも女医が選出され、また県市の行政機関にも女医会代表委員として任命されている。(七)日本女医学会の会員は夫々多芸多趣味、プロの域に達していられる方も多くと風聞いたしていますが、当支部全員も個人あるいはグループで各道に精進されており、ユニークな一

つとして、早逝を惜しまれている天才画家、佐分真氏の姪である会員の先生に数名の方が油絵を勉強し、女医グループをして医師会誌上に、また展覧会にも発表していられる。

静岡だより

静岡支部 山内 千枝



遠く富士を望む

東海地方について書くようにとのご通知をいただいたので私達の住む静岡県について二、三書かせていただきます。静岡県はご存知のように東京から新幹線で一時間乃至二時間で着く南は海、北は山の風光明媚、気候温暖で非常に住みよい所。産物は有明なお茶とみかん、お茶の時期には家内総出で茶摘みが始まる。紺の着物に赤い袴、手拭を姐さんかぶりにした茶摘み娘が緑の新茶の中に入って美しい風景を描く。またみかんの時がくると、山々は黄金色に色づいたみかん畑が平地のみならず山の中腹まで広がって見事だ。東京から新幹線で約一時間熱海に着く。美しい海岸線と温泉の街。尾崎紅葉の「金色夜叉」で有名。箱根の山も

(八)愛知県支部運営は支部長、副支部長五名、理事三十五名が夫々庶務、学術、社保、福祉、名簿、会計、健康相談、性教育の業務を分担し、定例理事会は月一回、総会年一回です。

近く、箱根の閑所跡、葦の湖の水も深々とした感じだ。富士山は県境にあり、日本一の崇高な神秘さを持つ素晴らしい姿で、そのなだらかな裾野はいつ見ても雄大そのものである。熱海から海岸線を南下すると伊豆半島がある。その東南端に近くペリー入港の下田港あり、「唐人お吉」を祀った所もある。その他、伊豆には幕末江川太郎左衛門のつくった反射炉のある韭山、岡本綺堂作「修善寺物語」で知られる修善寺等、名所も多い。熱海から約四十分、県庁所在地、静岡市がある。徳川家康公が七十五歳で生涯を閉じるまで構えられた駿府城が今は公園となり、高い石垣とその外側には深緑の水を湛えた濠に囲まれてその昔の名残りをとどめている。静岡から新幹線で三十分浜松市。ここは静岡より人口も数万人多く、今年第一回卒業生を出した国立浜松医大があり、地元に限らず医学を勉強する者にとつて大きいプラスである。浜松は浜松城が毅然とそびえている。家康公が駿府城に移るまでの何年かを住み、出世して駿府城

Circular Letter No.61

国際連絡書記 山崎 倫子(訳)

に入つたため、出世城といわれる。静岡市と浜松市の中間に東京女子医大の創設者であられる吉岡弥生先生のご実家とタレントの宮城まり子さんの経営の肢体不自由児の収容指導施設「ねむの木学園」があり大井川、天龍川という二大河川もある。浜松から少し歩を進めると、鰻で名を知られる浜名湖がある。非常に景色がよく、南は太平洋につづき、辨天島、館山寺温泉など、にぎやかな観光地あり、皇太子ご一家がこの浜名湖畔に避暑にこられるのも数年来のこと。有名人の別荘もある。ここは海苔と牡蠣が名物である。

さて静岡県女医学会について一寸書かせていただきます。県女医会員は約九十五名、年に二回会合を開く。今年はずいぶん静岡駅前ガス爆発のあった翌日、その現場より道一筋へだてた会場で五十五年度の総会を開いた。四十名の出席者で、群馬県での日本女医学会総会の報告、自己紹介、その他ののち、静岡家庭裁判所所長の野田愛子先生に「遺産相続及び家庭内の諸問題について」という講演をしていただき、食事をこー緒し、ガス爆発被害者の方々にお見舞金を募金、再会を約して散会した。

第十七回MWIAパーミンガム会議が、無事、成功裡に終了したことはご同慶の至りであり、この会議を組織運営された英国女医学会に対し心から感謝したい。この会議の成功こそ、彼女達の労苦に対する素晴らしい報酬である。

(一) 総会において一九八〇〜八一年期の役員が次の通り選出された。
会長 Dr. Joan Redshaw.
(オーストラリア)

前会長 Dr. Beryl D. Corner
(イギリス)

次期会長 Dr. Trinidad Gomez
(フィリピン)

名誉会計 Dr. Maria Holmstrom
(スウェーデン)

名誉書記 Dr. Martha Kyrie
(オーストリア)

副会長
北ヨーロッパ Dr. B. Stray Pedersen
(ノールウェイ)

中央ヨーロッパ Dr. A. Schwobel
(スイス)

南ヨーロッパ Dr. Renee Laeue
(フランス)

北アメリカ Dr. Beverley Tambohline
(カナダ)

中南米 Dr. Hildegard Stoltz
(メキシコ)

(ブラジル)

近東及びアフリカ Dr. Olu Oduntan
(ナイジェリア)

中央アジア Dr. M. Carachor
(インド)

西太平洋 Dr. Ayako Sano
(日本)

(二) 決議——最後の総会において八つの決議が承認された。(別掲)なお決議事項は、最も適切な関係諸機関に配布されたい。ただし、決議文の内容は絶対に変更しないこと。

(三) 議事録は印刷が出来あがった時点で各国へ送付する。

(四) MWIAのパンフレット及びリーフレットは残部があるので、申し出があれば送付する。

(五) Dr. タンボリンがMWIAニュースレター一号を、先般試みに印刷し、各国に送付したが、評判もよく、定期的発行の希望が多かった。

この件につき理事会で討議した結果PR広報委員会の継続的の事業をすることに決定した。このニュースレターは、MWIAや各国女医学会及び会員に関する興味ある諸問題や出来ごと等 国際事務局からのサーキュラー・レターとは異なった、あるいは追加的なニュースを知らせることに

なる。

Dr. タンボリンは、近いうちに正式のMWIAニュース・レター第一号を発行の予定である。ニュース・レターの大きさ、年間発行回数、経費等詳細については、一九八一年の理事会で決定することになる。

(六) 第十八回MWIA国際会議はフィリピン、マニラの国際会議センター(PICC)で、一九八二年十一月二十一日から二十七日に開催される。フィリピン組織委員会は、すでに準備に忙しく順調に進行しているとのことである。社交行事はすべて計画済みでプレ及びポスト、コングレスの旅行を企画中である。

学術プログラムの主テーマは、
"Humane Management in Medicine"
心ある医療——

(一) 医師患者関係
(二) 高齢患者
(三) 障害のある患者
a、身体的障害者 b、精神障害者 c、情緒障害者

(四) 末期患者
現在届いているテーマとその内容は以上の通りです。将来若干の変更または追加があるかもしれません。要するに心の通った、あたたかい、思いやりのある医療のあり方という風に解釈してよいと思います。

口演希望者は、著者名、演題に一五〇字以内の抄録をつけて、一九八一年四月一日までにウィーンの本部に連絡書記を通して送付のこと。

第十八回MWIA国際会議の予報、

社交行事等を含むプログラムと登録申し込み書は来年六月頃送付の予定。
(七) 第十九回MWIA国際会議はカナダで開催と決定。トピックには、
「男と女——生物学的及び行動的差異」が総会で決定された。

(八) 参加会費に関するMWIA政策決定。
一九七九年、ドイツ女医学会から工業国会員会費十%の値上げ、発展途上国会員会費については六十%軽減の提案がなされた。理事会でこの決議案は検討されたが、いかなる会員の差別もさけるべきだとの観点から、ついに否決され、ドイツ提案は取り下げよう処理された。

しかし、パーミンガム会議の数カ月前、コーナー会長は、ドイツ女医学会連絡書記から理事会の決定について再考慮してほしいことと、全女医学会にこのことを知らせて欲しいとの手紙を受け取った。このことについて、貴会においても充分検討し、会員の意見をまとめて一九八一年六月の理事会までに報告してほしい。もし工業国会員会費を高くし、途上国会費を安くする方がよいと考えるなら、一九八二年のMWIAMニラ会議の総会で、その決議案は提出されることになる。

(九) MWIA事務局
ミセス・ダックスとD. カーリー

はマニラ会議をもって引退するので現在のウィーンの事務所は閉鎖することになる。したがって新しい事務所とスタッフが必要となる。

一九八一年六月理事会までに至急決定し、マニラの総会で承認され、引きつぎをしなければならぬ。

社団法人鶴風会結成二十周年記念

祝賀会に出席して

都下支部 野沢 良美

昭和五十五年七月五日、帝国ホテルにおいて東邦大学医学部鶴風会社団法人結成二十周年記念祝賀会が盛大に開催されました。

多数の来賓の先生方、旧教授、現教授、同窓会長諸先生方の出席及び祝詞をいただきました。

日本女医学会長三神美和先生のご挨拶の要旨は、多くの同窓会は親睦を主とする任意団体であるが、その中で社団法人となっているものはごく少数である。社団法人は公益法人の一つであり、社会に対し何らかの貢献をするべく、すなわち研究、研修、医療等により、社会に還元する使命



三神先生を囲んで

(事務所及びスタッフの資格及び条件等、日本女医学会とは関係ないのでここでは省略する)

を持っていくこと、定款に基づき、総会が決定機関であり民主的な団体であること等の説明を明らかにされ、社員(会員)の今後の発展、社会への貢献を期待する旨のお言葉に、深く感銘致しました。

司会の先生によるテーブル毎のご紹介に続き、余興にうつりました。

まず、タンゴで有名な北村維章先生中心に二十一回生鶴風会員及びその友人方により結成されているコーラスグループの美しいメロディーの数々にうっとり聞きほれ、またつづいて二十二回生鶴風会員による日本舞踊の美しさに目をみはりました。和やかなうちに楽しい一夜を過ごすことができ、大変有意義であったと思いました。

社団法人鶴風会の初代理事長、龍智恵子先生はじめ諸先生のご苦勞を深く深くかみしめ、今後鶴風会が社団法人としての実績を挙げ、益々発展するよう心より祈念すると同時に会員一人一人がなお一層努力してまいりますと心に誓いました。

(日本女医学会 常任理事)

学術研究助成のご案内

学術部

従来より会員の学術研究に対し助成事業を行って参りましたが、昭和五十五年度から、公募によって会員の優れた研究に対して助成を行うことになりました。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請下さるようお願い申し上げます。

一、助成の趣旨

医学分野の発表、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

二、助成金額

総額一〇万円(三十四件)

三、申込手続

(1) 応募資格
日本女医学会会員(新規加入者を含む)で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2) 助成期間

一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する

(3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキで記入。

正一通と副一通(コピー)を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4) 申込期限

昭和五十五年十二月二十五日必着

(5) 選考及び発表方法

選考委員会において選考の上、昭和五十六年三月末開催の日本女医学会理事会において決定し申請者宛通知する

(6) 助成金の贈呈

昭和五十六年五月三十一日開催の日本女医学会総会の席上

(7) 受賞者の本会に対する義務

昭和五十七年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告の提出のほか、後日、日本女医学会主催の研修会において研究内容について発表をすること。

(8) 送り先

〒一六二 東京都新宿区市谷 田町一九

日本女医学会本部

電話 (〇三)三四一〇九六八

寄贈図書及びパンフレット案内

全国婦人新聞・ILOニュース
月刊前進座・婦人展望・浴風会
日本中国友好協会より「日本と中国」
日本看護協会より「協会ニュース」
「看護白書」
婦人国際平和自由連盟より「婦人と平和」
インドシナ難民を助ける会より「インドシナ難民第三号」
日本病院ボランティア協会より「病院ボランティアだより」
総理府婦人問題担当室より「えがりて」
全国官報販売協会組合より「月刊政府刊行物」
東京都労働経済局より「婦人労働」
東京都より「東京都行動計画」
国立婦人教育会館より「会館だより」
「家庭教育研究会セミナー報告書」
「婦人教育情報」
至誠会より「女医界」
「東京都支部だより」
関西医科大学同窓会より「おとづれ」

明石み代先生より「みすず」
「神谷美恵子著作集」
日本文化協会より「光のプレゼン トニュース」
労働省婦人少年局より「婦人の十年と私たちの活動」
日本メルク萬有より「CREATA」
日本汎太平洋東南アジア婦人協会より「パシワ」

忙中閑

忙中亦樂忙

(我愛北京天安門)

高知支部 小出 つる子

題目からお考えになると中国礼讃か、とお思いでしょうが、私の趣味は切手と旅行、切手収集では日本では一寸切手収集で名の知れた方は私を知っていない方はないということ、女性では一応日本一ということになっていきます。

切手を集めながら、記されている文字を読む癖が、何となく西歐諸国の単語を覚え、切手画面の図柄を見て諸国の風物を見覚え、やはり直接その国へ往って風景を、美術を建築を目のあたりにみたく、旅も好きになってしまいました。切手から旅へ、について書けばとめどもなくなっています。

漢字使用圏の有難さ、中国の切手はすべて楽に読めるし意味も辞書なしでわかります。切手の友人が、政変の多い中国の切手は、我々日本人こそが充分研究して集めておくべきだ、とずっと前言われたことを銘記して戦後の中国には特に熱を入れ集め、分類、研究しました、中でも天安門を描いた通常切手は、中国の国力がまだ充分統一されていないため、地方地方で印刷し、また地方によって郵便料もちがっていたり

して、同じ図柄でもずい分バラエティがあり、アルバム頁も数枚が一杯になる程で、面白いことには、始めのうちは天安門正面に毛主席の額がかけてなかったのが、統一完了後は毛主席の額がかかれ、切手にも描かれはじめて集める楽しみが増えました。先日ふと新しいカタログを見ましたら、その平凡な天安門通常切手が物凄く高価になっているのでビックリ、今ならとても購入も出来ないし、また中国の切手市場で見つけることも出来ません。

今年三月訪中した時はその毛主席の額がありませんでした。門の色を塗りなおしていましたが、「いづれまたかけるの?」と通訳にきいても「知りません」との答、むしろその答の中には、「オヤそんな額があったのかしら」主席の額の有無が何故そんな問題なのだろうという不思議がっている響きがあり。切手収集家にとつては大問題なことなのです。連日外来患者に殺到され、夜は来客電話、原稿と多忙をきわめる中で、切手の細かい所をルーペで眺め、参考書を読み夜の更けるのも知らず、昼の疲れを忘れ、実に楽しき哉切手収集。



理事会議事録

日時 昭和五十五年六月二十八日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、小俣、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、八木、尾中、川島、斉藤、佐野、清水、鈴木、野口、平瀬、藤井、マッキンストリ、森川、添田、山口

欠席(敬称略)
稲葉、久保田、守安、大原、川口、川那部、野呂、蓮井、藤田、山本、今野

4月19日 日中医学協会発起人会
松岡常任理事
三神会長出席
常任理事会、理事会を行う

4月22日 銀行と郵便局から振込する振替払込書の私製承認通知を受ける
4月30日 評議員会、総会開催通知を発送

5月9日 昭和五十四年度会務報告、定款細則改正案、日本女医学会誌、ルーペンタンパンフレットを発送
5月24日 第二十五回定時総会、定時評議員会を群馬県福一旅館にて開催

6月3日 へき地診療への助成該当者の推薦を各支部長に依頼
6月6日 学位取得者、医師国家試験合格者の調査依頼を各大学へする(六十八校)

6月12日 日本女医の実態調査報告第二報出来上る

その他
・大学婦人協会より中村道子氏退任、山崎倫子氏会長就任の挨拶状あり
・故宮地国栄先生ご遺族より香典の礼状と寄付金十万円あり

会計報告 佐藤常任理事
四、五月別紙どおり 承認
(1)理事会出席のための役員の交通費は、いまだ会費納入が少ないため六、七分は九月に支払う予定、会議費千円は支払う

(2)国際女医会議出席のための国際連絡書記の費用は国際ファンド会計より支出する
(3)日本女医の実態調査報告書第二報四千五百部印刷完了し、費用八十万である、送料約五十万は通信費より支出する、昭和五十年から五十四年までの実態調査の諸経費は合計約七百万円を要した

議題

一、会費値上げ(総会決定事項)及び納入依頼状の件 (庶務部)
総会で年度会費八千円に決定したので納入依頼状を全会員に発送する

二、新卒会員の件 (庶務部)
新卒者年度会費は、一般会員の半額(四千円)とし期間は入会年度のみとする、今後新卒及び一般会員の入会時(退会時)の氏名を本部より支部長に通知する、庶務部

で案を考える
三、研修会について (學術部)
今年の研修会開催地を大阪とし時期は十月か十一月、學術部で大阪に講師、演題、会場等の詳細を依頼する

四、職員昇給及び賞与の件
昇給は四月より基本給の七%と住宅手当三千円増、賞与は年五ヵ月夏期二、三ヵ月として交渉のこと
庶務、会計に一任

五、その他
(1)今総会において定款細則については逐条審議によって一条ずつ議長により議決されていないので第二章役員事項のみは継続審議となるが予備評議員および会費滞納の件などは実行に移すことは出来ない、総会そのものは時間がないという理由で、いささか審議が省かれる傾向は今後留意されたいと庶務から発言あり、来年の愛知の総会について佐藤常任理事から「愛知支部ではそのことを特に注意し総会の時間を多く取る意向であり旅行等は前日の午後いくつかのコースを用意して参加していただく総会当日は総会の審議を主とした会としたい」との意見を述べられた

(2)学位取得者及び国家試験合格者の返事が四十九校よりあり、学位取得者七十三名と当会会員九名計八十二名あった
国家試験合格者四九六名である

- ・ 当会入会勧誘状を出す(学術部)
- (3) 日本医療出版センターより当会名簿購入願について
 - 一部 五千円
- (4) 世界身体障害芸術家協会より絵葉書購入依頼について
 - 二千円送金する
- (5) 全国婦人新聞社より購読料三千円支払依頼について
 - 従来通り支払わない
- (6) 日中医学協会より入会依頼について
 - 法人による賛助会員として団体入会する
- (7) 研究助成について(学術部)
 - ・ 審査委員を選出する
 - ・ 規定の用紙等を作成し大学に案内する
 - ・ 会誌に掲載する
- (8) 国際連絡書記報告
 - (山崎国際連絡書記)
 - ・ 今回の国際女医会(英国)出席者氏名の名簿は一冊として特に結団式は行わない
 - ・ 国際女医会評議員としては三神、山崎、福永、佐野、小野の五氏とする
 - (9) ルーペンタンについて
 - 六月二十六日フジテレビが三越デパート及び井手商店の依頼によるルーペンタンの普及に協力した

集会「女性と健康」の開催について

(3) 国立婦人教育会館より昭和五十五年度公開講座(女性学講座)について

(4) 東京都労働経済局労政部より「職場における男女差別苦情処理委員会」リーフレットの送付について

以上 久保田くら 松岡 宏子

常任理事会議事録

日時 昭和五十五年七月二十六日

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小侯、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木

欠席 なし

職務報告 久保田常任理事

6月27日 日本国際連合協会セミナー開催につき竹内常任理事出席

6月28日 常任理事会、理事会を行う

7月9日 NGO一九八〇年度総会の準備役員会に山崎副会長出席

7月11日 厚生省へ昭和五十四年度事業報告及び会務報告を提出

その他

・ 厚生省医務局長に山本純男氏就任の挨拶あり

・ 世界身体障害芸術家協会より寄付協力に対し礼状あり

・ 安田信託銀行新宿西口支店より支店長移動により挨拶状あり

・ 新支店長 宮坂昌宏

会計報告 佐藤常任理事

六月分別紙どおり 承認

報告事項

(1) 厚生大臣の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則の一部改正について通知あり

(2) 昭和五十五年度「婦人国内研修受入れ期間」の講演について

(3) 昭和五十五年度「婦人教育研究集会」の開催について

以上 久保田くら 松岡 宏子

会員動静

支部長変更新支部長(敬称略)

北海道支部長 柿木ヒデ

福井支部長 富樫澄子

入会会員(敬称略)

北海道支部 柿木ヒデ

埼玉支部 今井こま子

渋谷支部 矢花美美子

豊島支部 石川恭子

神奈川支部 中島幹恵

福岡支部 白水明代

退会会員(敬称略)

北海道支部 菅原五月

秋田支部 九嶋貞佳

福島支部 斉藤春子

北支部 水本志津子

練馬支部 寺野易代

神奈川支部 三好しづか

大阪八支部 里井江津

大阪九支部 富山良子

広島支部 渡橋良江

徳島支部 岩崎朝子

福岡支部 青木初子

五十四年卒 勝又牧子 佐藤弥生

会員物故者(敬称略)

訃報に接し哀悼にたえず謹んでご冥福をお祈りいたします

杉並支部 児玉琴枝

静岡支部 島津美波

石川支部 銀山アサ

奈良支部 牛村澄子

大阪三支部 南 春枝

千葉加多子

編集後記

先ずご多忙中本号にご寄稿いただいた各位に深謝申し上げます。

さてこの八十四号も前号に続き今夏英国バーミンガムで開催の国際女医会議についての稿「国際連絡書記山崎倫子副会長の会議内容について」詳細な要を得た報告、今回国際女医会副会長の一人(西太平洋地域)に選出の佐野アヤ子理事の挨拶、井上柳子会員の印象記とスコットランド旅行記等は、今回は今回参加の機会を持たなかった多くの会員達に国際女医会議への理解を深め関心を高めることでありましょうし国際会議における

日本女医学会の存在についても再認識されるのではありますまいか。それにつけても戦後再発足以来代々の本会の国際連絡書記達の一方ならぬ努力と力量を、会長を先頭に会員達の協力の積み重ねの大きさを思うこと切であります。次に国内五千人に余る女医の参加による「日本女医の実態調査」を無事完了された直接担当者柳瀬副会長の報告に対し日本女医学会の記念碑がまた一つ出来ました。まことに苦勞様ございましたと申し上げたい。

今さら申すまでもないことながら、本誌は日本女医学会の機関紙として定例の庶務、会計報告の他、国の内外におけるその活動内容状況の報告、またその予定公示等が重要な記事であります。が、会員のための開かれたページも相当もち得る訳で、中央はじめ地方在住の一般会員の寄稿を期待いたしております。本会の新鮮化若返り?のために広報は微力ながら努力の決意しております。終りに会員各位のご健勝を念じ来る一九八一年に大きな希望を托しつつ今年最終号の後記といたします。(川那部記)

昭和五十五年十月二十日 印刷
昭和五十五年十月二十五日 発行
編集人 野 沢 良 美
発行人 日本 女 医 会
発行所 東京都新宿区
市谷河田町19
社団法人 日本 女 医 会
TEL (31)〇九六八
印刷所 東京都文京区本駒込
一七七一十五
株式会社 北 斗 社